

第8回旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存活用等検討委員会 議事録

■日 時 2015年3月17日(火) 17:30～19:30

■場 所 札幌市役所本庁舎6階 1号会議室

■参加者 委員：小澤 丈夫／北海道大学大学院工学研究院准教授
平井 卓郎／北海道大学大学院農学研究院特任教授
角 幸博／北海道大学名誉教授
東田 秀美／NPO法人「旧小熊邸倶楽部」代表
川上 佳津仁／札幌市観光文化局文化部長
オブザーバー：佐藤 哲哉／北海道教育庁生涯学習文化財・博物館課文化財保護グループ主査
札幌市都市局建築部職員3名、中央区土木部職員1名
事務局：櫛引文化財課長、北村文化財係長、田村
株式会社KITABA：神長、窪田
傍 聴：3名

1) 開会

2) 保存活用基本計画の策定について(資料-1)

(小澤委員長)

- ・このような形で保存活用基本計画を取りまとめ、平成27年2月ということで、すでに公表されているとのこと。
- ・事務局より保存活用基本計画の策定についてご報告をいただいたが、これについて何かご質問等あれば。

(各委員)

- ・特になし。

3) 設計プロポーザルの状況について(資料-2)

(小澤委員長)

- ・設計プロポーザルのスケジュールと選定委員会における検討・決定事項についてご報告いただいたが、これについて何かご質問等あるか。

(東田委員)

- ・何社ぐらい応募があったのか。ということは聞いても良いのか。公開できないことであれば聞かないが。

(田村)

- ・検討、選定経過内容自体は非公表となっている。

(小澤委員長)

- ・次回の大きな山場は、3月20日に第1次の選定委員会が行われるということ。

4) 活用方針プロポーザルについて（資料-3）

（東田委員）

- ・私は、この4番の活用方針プロポーザルそのものに対して、私がやっている活動や事業が、そもそも古い建物の保存活用に関することなので、このプロポーザル自体に手を挙げたいという意思が今のところある。この説明そのものは公開になっていることはわかっているが、一応出したいという気持ちがあるので、この部分の検討や議論の席からは外させていただきたい。

（小澤委員長）

- ・この委員会自体は今年度で一区切りするので、そのタイミングであるということと、来年度の検討というこの部分については、東田委員は参加しないということか。

（東田委員）

- ・今のところ、プロポーザルに手を挙げたいという意思があるので。

（小澤委員長）

- ・東田委員からそういった申し出があったがよろしいか。

（各委員）

- ・異議なし。

（小澤委員長）

- ・では、この部分の検討については、東田委員には抜けていただくということで進めたいと思う。

（小澤委員長）

- ・事務局より、活用方針プロポーザルということで方針の概要を説明いただいたが、この概要に対して委員会で意見があれば出して、その内容を反映していただき4月3日の公募に向けて準備されるということ。
- ・ご説明に対して、ご質問ご意見等あるか。

（川上部長）

- ・スケジュールについて確認だが、参加表明書と企画提案書の提出と2段階となっているが、今回の場合、その必要があるのか。建築プロポーザルでも2段階でやっているが、参加表明の段階で一次審査をしている。今回は、企画提案書を出してもらった後に一次審査を行うということなので、参加表明書を提出する必要があるのか。
- ・また、これに関連して、質問票の受付期限があるが、参加する側は、いろいろな質問を出して、その回答を踏まえて参加するかどうかを決めると思うので、順序が逆になるのではないかという印象を持った。

(小澤委員長)

- ・今の件について、事務局側はどのように考えているか。

(田村)

- ・今いただいたご意見はごもっともだと受け取った。スケジュールについては、全庁的に実施している流れを踏まえて組み立てたものだが、今、ご意見いただいたように、今回の件に関しては、参加表明書の提出を受ける必要はないかもしれない。

(角委員)

- ・これは、2段階になっている意味というものもあるのだろう。事前にどのぐらい応募があるかの把握など。ただ、参加表明書が出た後に、少なかったからといって働きかけるということとは出来ない。

(小澤委員長)

- ・おそらく、参加表明書を出してもらってから質問受付を締切るとした場合、その回答は、参加表明を提出した方のみ返すことになると思う。逆の場合は、質問内容も回答も全て公開しながら進めることになる。今回の場合、どちらのパターンが良いのかということ。

(川上部上)

- ・流れ的にいくと、現地見学会があって質問を受け付けて回答し、参加表明書を出してもらい一次審査。そして企画提案書を出してもらって最後にヒアリング審査ということになるのではないか。

(角委員)

- ・先ほど委員長が言っていたように、参加表明書の提出前に質問票受け付けがあると、回答は公開しなければならないが、質問票が後であれば、参加表明した人にだけ回答すれば良いということになる。今回の場合どちらが良いのか。公開となると事務負担も変わってくるが。

(川上部上)

- ・参加表明を出すかどうかを判断するために1段階目の質問期間があり、参加するとなってから詳細な検討をする際に必要となる質問事項を2段階目とする流れになるのではないかと思う。

(角委員)

- ・確かに、今言われた方が丁寧ではある。

(平井副委員長)

- ・基本的な部分では問題無いと思うが、参加表明書をどういう位置づけにするのかということを示せば良いのではないか。学生の就職エントリーシートのように、参加の意志があるということを示すだけで、実際の段階で参加しなくても良いというものなのか、辞退は出来ないものとするのか。

(田村)

- ・今の形では、前者で考えている。

(角委員)

- ・ 広く手を差し伸べるのかどうかは今回のプロポーザルの根幹に関わる部分になる。

(小澤委員長)

- ・ 建築プロポーザルと違って、このプロポーザルは前例に無い事例になる。こちら側も、参加者も良くわからないので手探りになる。
- ・ 建築プロポーザルではこの順だったか。

(田村)

- ・ 建築プロポーザルでは、質問票の締切が先で、その後に参加表明となっている。建築プロポーザル以外では、今回の案のようになっていて、特段、意図があったわけではないが、建築プロポーザル以外のものの流れを参考にしてスケジュールを組んでいる。

(川上部長)

- ・ 1次審査も企画提案書で審査するんですよね。参加表明はただ手を挙げるだけですよね。

(平井副委員長)

- ・ 参加表明は事前登録ですよね。登録して話を聞いてみてやっぱり辞めるということも出来るということ。どのくらいの人応募があるか読めない。

(川上部長)

- ・ そもそも手を挙げる人がいなかったらどうするのか。今回は初めてのケースなので読めない。

(角委員)

- ・ ということは、安全を見て、まずは手を上げてもらってということになるのか。

(平井副委員長)

- ・ そうなると参加表明書はすごく簡単なものになる。

(田村)

- ・ 今想定しているのは、名称と連絡先のみを書いていただくもの。

(小澤委員長)

- ・ 今は、その段階で審査するという事は考えていないのですよね。

(田村)

- ・ はい。それは難しいと思っている。

(角委員)

- ・ 参加表明書があった方が、より具体的な質問が出るような気がするが。

(平井副委員長)

- ・ 参加表明書欄に質問欄を設けるという手もあるのではないか。

(小澤委員長)

- ・ なかなか決定打がありませんね。

(川上部長)

- ・現地見学会を行ない、質問を受けて、参加表明を受け付けたら、1社もエントリーが無かった場合どうするのか。最悪の場合の想定だが。延期をするのか。
- ・そう考えると、エントリーを一旦受けるというのも状況把握といったことでは意味があるのかもしれない。

(楢引課長)

- ・現地検討会を初めに入れているので、ある程度そこでも状況を把握できるし、そこで判断していただき、エントリー頂ける人には参加表明を出していただくという流れにはなっている。

(川上部長)

- ・現地見学会を行い、参加表明を出すまでにいろいろと検討されて質問が出てくると思う。やはり、参加表明の前に一旦質問を受け付けて回答した方が良いと思う。そうすると、質問は2段階にした方が良い。

(角委員)

- ・今の形では最初からも受け付けて、途中でも質問は出せる形にはなっている。
- ・ただ、ばらばらと受け付けると、対応も大変になると思う。

(田村)

- ・質問自体は4月3日から受け付ける予定で、回答は適宜と考えていたが、どういった方法でどのようにという部分までは検討が至っていなかった。

(小澤委員長)

- ・質問の回答を適宜出すとなると、参加者も常にチェックしている必要があり、ストレスになると思う。質問の受付期限をコンパクトにし、回答日も決めておいた方が良いのではないかな。その方が事務局も楽になる。

(川上部長)

- ・より多くの人に参加いただきたいということであれば、やはり情報は全公開にするべきだと思う。

(小澤委員長)

- ・それでは、例えば一案だが、現地見学会のすぐ後に質問受付期間を1週間ぐらい設け、そこで回答してしまうというのはどうか。スケジュールがタイトになるが。

(角委員)

- ・今、2段階の考え方がある。1つは現地見学会後に参加表明するまでの期間にしたい質問。もう1つは参加表明を出した後、企画提案書を提出するまでのもっと具体的な質問。
- ・やはり、両方に対応した方が親切なのでは。事務局作業は大変になるが。

(小澤委員長)

- ・確かにその方が良いかもしれない。

(平井副委員長)

- ・それでは、参加表明を出す前の質問は期限を区切って回答し、参加表明書を出した後の質問に対しては、随時回答ということでしょうか。

(小澤委員長)

- ・提案する側から考えると、質問の回答が随時出てしまうと、自分が既に検討を進めた内容に関連して違った視点での回答が出た場合、手戻りが発生してしまうので、期間を区切って一括で回答した方が良いと思う。

(平井副委員長)

- ・そうすると結構スケジュール的に厳しくなる。連休も挟むことになる。

(小澤委員長)

- ・6月5日の通知結果発送という日程は絶対にずらせない日程になるのか。

(田村)

- ・絶対ではない。

(小澤委員長)

- ・多少ずれても大丈夫ならば、少しずらしてはどうか。

(楢引課長)

- ・1週ずらすと良いかもしれない。

(平井副委員長)

- ・それですとだいぶ楽になる。時間的に余裕があるのであれば、ずらすと良い。

(小澤委員長)

- ・では、スケジュールを少し後ろ倒しにして、現地見学会の後、質問期間を設けてこれに対する回答をした後に参加表明の締切を行う。その後、企画提案に関する質問を受け付ける期間を再度設けて回答する。この回答に関しては、参加表明された方にだけで基本的には良いが、できるだけオープンにすることが望ましいので、この点については、事務局でご検討いただく。そして、企画提案を練る十分な期間を設けて企画提案書の提出締切を設けるということではよろしいか。
- ・詳細な日程は事務局で一旦検討いただきたい。

(角委員)

- ・良いと思う。ただ、この委員会は今日で終わりになるが。

(田村)

- ・この委員会は3月31日で終わるので、その前に再調整して、委員の皆さまにはメール等でご相談させていただきたい。

(小澤委員長)

- ・今気づいたが、スケジュールで4月3日に「公募」開始となっているが、受付を開始するということになるのか。

(窪田)

- ・公示開始になる。

(角委員)

- ・求める提案事項の2番目に、所要室のゾーニングとあるが、実際の資料にはもう少しこまかな説明があるのかもしれないが、この文言だけだとわかりにくい。どのようなイメージか。
- ・ゾーニングの性格付けを新たにするのか、もう少し具体的なことなのか。

(田村)

- ・意図しているのは、設計プロポーザルでも示した所要室の資料も添付し、具体的な提案をもらうイメージでいる。

(角委員)

- ・ただ、建築プロポーザルではない。

(窪田)

- ・イメージしていたのは、提案項目の1つ目で具体的な活用アイデアとあるが、そこで考えたアイデア、例えばカフェ機能はどんなものであるかとか、多目的スペースはどのような使い方を想定するかというアイデアが出されたとして、そういったものをどのように配置したいかという考え方を提案してもらったイメージだった。
- ・ただ、提案側の負荷もかかるかもしれないので、ここではそこまで求めないということも検討の余地があるかもしれない。

(平井副委員長)

- ・これは、三菱鉦業寮の全体的な活用方法を聞くプロポーザルで、この部分をこう使いたいということを聞くプロポーザルではないと考えてよいか。であれば、他の部分も聞くようにしなければならないのではないかな。
- ・この場所でこれをやりたい。あとは知りませんという提案もあるかもしれない。全部に対して聞くということで揃えるのか、あるいは、何をどのくらいの面積あれば良いという提案でも良いということにするのかは示しておく必要がある。

(川上部長)

- ・どこの場所でやりたいかを聞くということですよ。

(窪田)

- ・今回は歴史的な建物を活かすという視点が大事なので、そういったことを活かして何をどこでといった提案を貰えると良いかなと考えた。確かに負荷はかかってくると思うが。

(角委員)

- ・表現の問題のような気がするが。

(平井副委員長)

- ・建物の用途のゾーニングとなるのか。

(小澤委員長)

- ・収益性についても大事にポイントになるので、それをどこにするかといった使い方も関わってくる。
- ・設計プロポーザルも案は提案してもらえけれど、あくまでも設計者を選ぶもの。
- ・また、来年度設計作業を始めるにあたって、活用方法の検討の部分はどんどん進める必要があるので、提案の段階からそのぐらいのことを聞いても良いかもしれない。

(角委員)

- ・所要室の具体的な使い方といった感じか。

(平井副委員長)

- ・全体の建物の位置づけに対してイメージが無くても、ここでこういったことをするとといった提案が、札幌市の考えに合致していれば良いということですよ。
- ・そしてさらに、全体のイメージについても提案があればなお良いということですよ。どちらでも良いということにしておく必要がある。そうしないと応募者があまり出てこないかもしれない。
- ・今回、内部の壁を取っ払って、ひとつづきの空間として活用することは考えていない。そういったことはどこかに記載する必要はないか。

(小澤委員長)

- ・それは保存活用基本計画に書いてあるのでそれを踏まえていただくということで良いのではないか。
- ・では、「基本計画を踏まえた上での所要室の具体的な使い方について」としてはどうか。

(川上部長)

- ・全ての項目にかかるように、1番上に「基本計画を踏まえた上で以下の項目について提案すること」とした方が良いのではないか。

(各委員)

- ・それが良い。

(川上部長)

- ・(1)の両施設というのは、永山邸についても提案を求めるということで良いのか。

(田村)

- ・そう考えている。

(小澤委員長)

- ・実施体制・実績とあるが、今回は実際に事業を運営していくわけではないので、想定を書くということになるのか。

(田村)

- ・これは、作成業務を実施するにあたっての人員体制や事務局との連携配慮などについて書いてもらうイメージでいる。

(小澤委員長)

・では、作成業務の実施体制・実績とした方が良いのではないか。

(角委員)

・今回のプロポーザルは作成業務についてということが全てにかかってくるので、ここにだけ付けるのは不自然ではないか。

(小澤委員長)

・確かにそうですね。

(角委員)

・ただ、誤解を受ける人もいるかもしれないので、冒頭の業務内容の「実際に管理運営を行うものではない」に下線を入れた方が良くかもしれない。

(川上部長)

・10の評価基準のところ、業務への意欲、姿勢等という評価視点があるが、これは一次審査でどう評価するのか。

(小澤委員長)

・これは、どちらかという、2次審査のヒアリングで評価するものなのではないかと私も思った。

(川上部長)

・市の他の部署のプロポもこのような方法でやっているのか。

(田村)

・このようにやっている。

・ここでいう意欲、姿勢等ということは、2次審査でも評価できる部分ではあるが、書類の段階で、取組体制やこの事業に対してどのように取り組んでいくのか、ということを提案の中に盛り込んでもらうので、それを持って評価することを想定している。

(川上部長)

・それは、実施体制ではないのか。

・意欲や姿勢をどう審査するのか、がんばりますと作文で書いてもらっても、やはり、面と向かって聞いてみないとなかなか計れないのではないか。

(小澤委員長)

・一次審査でも提案内容を見て審査されるわけですよ。

(田村)

・実施体制については審査することになる。

(平井副委員長)

・意欲姿勢とは言っているが、想いや気持ちではなく、そこでは具体的な企画内容を求めている。ここでは、そう言っているけれど、人員体制などはきちんとしているのかということを知ることになるのか。

(小澤委員長)

- ・審査する際に、現実的な案もあれば、現実性には課題は残るが大胆な提案など、いろいろあると思う。そのあたりを判断して、事前に分けたいことになるのか。

(田村)

- ・そのようなイメージもある。
- ・イメージとしては、一次審査では、この業務に対して、何人でどのような人が、どのような体制で取組むのか、また、この業務全般に対してどのような考えを持っているかを見たいと思っており、二次審査では、先ほどお話していたような具体的にどこをどのようにしたいと考えているかなどを評価するイメージでいる。

(平井副委員長)

- ・そうすると難しいかもしれない。建築の場合は技術を持った人が何人いるかなど、書類である程度判断できるが、今回の場合は、抽象的な提案もあれば、具体的な提案も想定される。ものすごく幅が出そうですね。同じ採点基準ではなかなか出来ないのではないかと。
- ・抽象的でも面白そうだから話を聞いてみよう、という場合も出てくる。

(角委員)

- ・これは大まかな配点となっているが、当然、細かい採点基準は作るのか。

(田村)

- ・そうなる。

(平井副委員長)

- ・札幌市さんがやっているプロポなので、プロだけではなく、市民団体などの提案者も一次審査には通していきたいという考え方もあると思う。

(川上部長)

- ・仮に、5社未満であっても、明らかに不適格な場合は一次審査を通さないということもあるのか。

(田村)

- ・そうなる。

(角委員)

- ・ここで議論をしても、こまかな採点基準がわからないので不安。

(川上部長)

- ・他の部署でも雛形があるはず。それにのっとった形でやっていけば良い。

(平井副委員長)

- ・今回のプロポーザルは例えば学生グループなどが応募するということもあるか。

(角委員)

- ・法人格は必要になるが、学生がNPOを作るなどして応募することはあり得るのではないかと。

(小澤委員長)

- ・一次審査の部分は、あまり細かく書くより、資格審査という意味合いで、業務の実施体制と業務への理解度を事務局で判断します、とした方が良いのではないかと。点数を入れるのは二次審査のみで行ってはどうか。

(角委員)

- ・ものすごく沢山の応募があった場合困るということなのだろうが、一次審査で5社程度に事務局が絞り込むということも、専門的な部分に関わるので大変なのではないか。
- ・いずれにしても、細かな採点基準が無い中では議論をしづらい。

(小澤委員長)

- ・もちろん、応募者全員について審査をすべきだが、沢山の応募があった場合は大変なので、現実的などころという意味合いで、事務局である観光文化部の一任で体制や理解度を踏まえて5社程度に絞り、二次審査にて、きちんと配点を決めて、外部委員も入れた形で審査するというところでまとめられてはどうか。

(田村)

- ・そうしたいと思う。
- ・細かな評価基準という部分については、もちろん作っていくが、公示するものとしては大項目で配点を示すことを考えている。それについてはいかがか。

(角委員)

- ・それは、他の事例に合わせて、大項目で良いと思う。応募する側は点数を見て提案内容を吟味するものなので、大項目であっても配点は示されている方が良いと思う。

(小澤委員長)

- ・今の意見を参考にまとめていただけたらと思う。

(角委員)

- ・このプロポーザルは、他の地域に対してもインパクトがあり、参考となる事例になってくると思うので、頑張って中身の濃いものにしていただければと思う。

5) 今後の進め方について (資料-4)

(小澤委員長)

- ・今後の進め方について、何かご質問等あるか。

(各委員)

- ・特になし。

-総括-

(小澤委員長)

- ・それでは、最後に総括に入りたいと思う。次年度は活用方針を検討していくといった新たなステージに移行する。本日は、2カ年に渡った「旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存活用検討委員会」の最後となるので、各委員に、感想や今後に向けての思いなどのお話をいただきたい。

(角委員)

- ・2年間お疲れ様でした。これで終わるわけではなさそうだけれども。
- ・今お話があったように、このような公募型プロポーザルは、他の市町村にも事例がないし、保存活用基本計画に基づいてより良いものにしていこうという、札幌市さんの意気込み意欲が非常に感じられた。
- ・私は、いろいろと歴史的な建物の保存活用を考える機会に立ち会っているが、なかなか良い形できちんと検討できる機会が無いので、今回は、札幌市さん含め、関わった方々が、皆さんに真摯に取り組んでいただけたことを嬉しく思う。
- ・おそらく市民の方々もこれが出来上がると、札幌市の歴史的資産の見方が変わってくるのではないかと。逆に言うと、非常に責任の重い計画になっていくのではないのかなと思う。
- ・明治期のものと昭和期のものが並んでおり、札幌のまち並みの作り方の代表的な例となるものを上手に使っていくことで、次の世代に繋げていくことが出来れば、素晴らしい案件になるのではと思う。
- ・今後もご協力できることがあれば取り組んでいきたい。

(東田委員)

- ・2年間ありがとうございました。保存計画基本計画はとても良い形でまとまったと思う。
- ・これまで、見に来る人ということで市民の方が札幌市の歴史的建造物に来ることはあったと思うが、活用や再生の部分に市民が関わることは無かった。それが来年度から始まるのだと思う。
- ・年末に意見交換会が開催され、市民の方々と話をする機会があったが、永山邸が、これから自分たちが使える場所になるのだとか、管理できるようになるかもしれない、といったことに対して前向きなご意見を沢山いただいて、帰りに呼び止めて話してくれた人もいたことに感動した。
- ・永山邸が、市民がただ見に来るだけではなく、自分たちも手や足を使い、汗を流して、使っていける場所、関わって行ける場所になっていけば良いと思う。

(川上部長)

- ・私は昨年の4月からで一年弱の関わりだったが、この委員会に参加しながら感じたことは、今、角委員や東田委員からもお話があったが、歴史的建造物はただ守り保存すれば良いというものではなく、再生、活用ということ、また、そこには市民も関わっていくということ、それを永山邸でやろうとしているということは、札幌市にとってもとてもチャレンジングなことで、本日までご議論いただいた活用方針プロポーザルはこれまでにやったことが無いことな

ので、非常に試行錯誤しながら進めているところだが、なんとか成功に繋げていきたいと思う。

- ・来年度からは、活用方針を考えるということで、正に正念場となる。そういった意味で、この検討委員会は幕を閉じるが、今後も委員の皆様にはお知恵、アドバイスをいただく場面が多々あると思うので、その際は、どうかご協力いただきたい。
- ・私は1年弱だったが、ありがとうございました。

(平井副委員長)

- ・自分自身、このようなことには普段関わる機会が少なく、建物の保全だけの話、あるいは、市民グループで何をしようかといったことだけの話には関わる機会があったが、実際、これから具体的に話が進み出すと、色々なバックグラウンドを持った人達がここに関わってくることになる。アマチュアの方の知恵も必要だし、やはりプロが押さえなければいけないところもあるだろうと思うし、札幌市で事務局をされる方は想像以上に大変になると思うが、これからは、歴史的建造物の保存活用を考える時は、やはり必ずそのようなやり方をやっていく必要があるんだと思う。
- ・今まで、そのようなことを皆で話す場がなかった。先ほどの話にあったように、若い人が入ってくる可能性もあるし、逆にシルバー世代も増えていくし、もとプロだった人も今はアマチュア的にやりながら、毎日ではなくても、1日ぐらいなら協力したいという人がおそらくあちこちから出てくると思う。そういう意味では、例えば、角先生や私などの今後のあり方にも関わってくるかなど、ある意味自分にも非常に関わってくる部分があるなと思いつつ楽しく会議に参加した。ありがとうございました。

(小澤委員長)

- ・最後になり僭越だが、まず、旧永山邸及び旧三菱鉱業寮は、比較的コンパクトで、言い方が悪いかも知れないが、扱いやすい、大掛かりにはならないといった歴史的建造物で、なおかつ、まちの中心部にある人通りの非常に多い賑わいのある場所に位置しているにもかかわらず、これまでなかなか上手く活用されてこなかったといった、可能性と課題がはっきりとした案件だったかと思う。
- ・そういうものに対して、文化財課の方が非常に熱意を持って取り組まれていることに、非常に好感を持った。これだけ慎重に、公開で物事を進めているということで、また、前例が無いということもあるが、慣例に習うのではなく、1つ1つ試行錯誤で進めていくといったことで、大変なご苦労もされていると思うが、一步一步、着実に進んでいると思っている。
- ・特に、市民に対する情報公開を行うことや、一緒に考えていくという姿勢、そういうことを進めていくことの第一歩にもなっていると思うし、190万都市の市役所ということで非常に大きな組織になるが、その中で、文化財課さんだけではなく、緑化の方など様々な調整も必要になってくると思う。そういった面でも1つのモデルになっていくと良いと感じている。

- ・札幌市の外に対しても、中に対しても大変意義のあることをやっていると感じているので、あとは、来年度が大変になるが、そこでしっかりとした成果、これでやって良かったといった成果を出せることが1番大事だと思うので、一応この委員会はこれで終わるが、今後も協力は惜しまないので、是非とも良い結果を出せるように進めていただけたらと思う。
- ・拙い進行でご迷惑をおかけしたこともあったかと思うが、改めてこの場をおかりして皆さまに感謝申し上げたいと思う。ありがとうございました。

6) その他

- ・2カ年という長い期間にわたりご検討いただきありがとうございました。
- ・先ほどあった、活用方針プロポーザルの修正点については、年度末も差し迫っているので、メール等でご相談させていただきたいと思う。

7) 閉会